




## ICT 学習支援教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	青森県立青森第二高等養護	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 <input checked="" type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 情報 ）		
	単元(題材)名	情報科：情報モラル（ネット炎上）「不適切投稿」		
	単元(題材)の目標	スマートフォンやゲーム機・音楽プレーヤーなどを使えば、誰でも簡単に、インターネット上の投稿サイトに掲載することができる。特に、未成年は深く考えずに「不適切」な動画や写真を投稿してトラブルになるケースが多い。本題材では身近なグループ間での動画投稿の例を使い、問題発生までのありがちな流れや心理、行動を追いかけて不適切投稿によるリスクについて学習する。		
学習集団と実態	学部・学年・人数	高等	部	3 年 7 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	※個別学習の場合は、個人の本単元（題材）における主な実態を端的に記入する。 ネット上の様々なトラブルを学習してきたが、ケースごとの細かな事象に対する認知力、善悪の判断等、生徒個々の実態差が大きい。ICT 機器の基本的な操作については、全員行うことができ、授業に対しても意欲的に取り組む姿勢が身に付いている。		
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称	※使用した ICT 機器（入出力支援装置等）名を記入する。 教師：iPad、AppleTV、デスクトップ PC、液晶プロジェクター、スクリーン 生徒：ノート PC		
	使用したアプリケーションの名称	※使用したアプリケーション名を記入する。 情報モラル啓発アプリ「たまボク」 Google Classroom Google フォーム	アプリマーク   	
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション支援 <input checked="" type="checkbox"/> 活動支援 ( <input checked="" type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援 ) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 ( <input checked="" type="checkbox"/> 教科学習支援 <input checked="" type="checkbox"/> 認知発達支援 <input checked="" type="checkbox"/> 社会生活支援 )		
	ICT活用のねらい	会話形式のストーリーを進める途中で出てくる選択場面について、自分が選んだ選択肢やその理由について Google フォームに入力し、集計結果をスクリーンに投影することで、生徒同士の意見を共有し、話し合っ一つを選択肢を決定するなどの協働的な学習を行い、道徳心とコミュニケーション能力の向上を図る。		
活用の状況と支援	※ICT 活用場面と行った支援について記入する。 提示されたストーリーについて、生徒一人一人の様々な感じ方、考え方があったことができた。各選択肢に割り振られた点数の合計によって3つの評価に分かれるため、各選択肢について「最良の選択」「普通の選択」「間違っった選択」を生徒間で話し合っって検証したり、教師が助言したりすることができた。様々なトラブル事例に応じた最善策を知る機会となり、道徳心とコミュニケーション能力の向上を図ることができた。			